

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年5月10日

事業所名 クローバーしまもと

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	56%	0%	クールダウン室、テーブルや玩具置き場等での仕切り	児童も多く手狭に感じることがあるので利用者の曜日工夫など行っていく
	2	職員の配置数は適切である	56%	0%	担当者のグループ分け	介護度の高い利用者が多く指導員でも不足を感じる事がある
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	67%	0%	スロープの設置、段差解消	新築にしたことでバリアフリー化となっている
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	89%	0%	支援計画を共有し、支援を見直すシステムをくり返し行っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	67%	0%		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	89%	0%		自己評価の項目などの結果・内容を開示していく
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	56%	11%		自己評価結果を事業所内会議などで見直し、「わからない」回答をなくすよう説明の場を設ける
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	89%	0%		コロナ禍でのWEB研修が落ち着けば外部研修を増やしていく
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	56%	0%	職員用構造化・個人の注意項目表等を職員間で共有できる場所に提示している	児童発達支援管理責任者が作成しているアセスメントツールを指導員にも共有していく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	78%	0%		行事自体の立案は全体会議で行っているが、詳細など、案の広がりへの為に更にチーム力を高めていく
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	89%	0%		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	78%	0%		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	89%	0%	構造化ボードで確認(引継ぎ)	指導員の構造化を図り、且つ児童発達支援管理責任者より情報共有の為に引継ぎを行っている。さらに共有の強化を図る
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	89%	0%	支援後の記録記入時、フィードバックを行なっている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	89%	0%	事業所相談・支援計画のモニタリングなどで見直しを行なっている	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	56%	0%	ガイドラインを職員の配布し、職員会議でどこかの項目をピックアップし振り返っている	ガイドラインは指導員会議でも共有しているが実際の指導上に当てはめる事項の照らし合わせの機会を作ってゆく	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	67%	0%		サービス担当者会議の有無、構成等指導員にも共有して 当該記録の回覧なども検討する
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	44%	11%		医療的ケアの受け入れは現在行っていない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	67%	0%		全員ではない
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	44%	0%	指導員会議では、「児童」から「成人」に代わる時に個人の目標を検討し直している	現在当事業所では日中一時支援(障がい福祉サービス)を併用していることで共有出来ている
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	56%	0%		町内に当概センターが設置されていない
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	33%	0%		対象児童の特性から公の設定は積極的には行っていないが、長期休暇等には地域の公園に出向いている
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	56%	0%	地域貢献委員会(地域防災等施設長会議)に参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	44%	0%	児童発達支援管理責任者及び専門職が面談方式にてアドバイス等行なっている。	保護者へのアプローチの形式・内容・課題などを指導員にも共有し、参画できるようにしていく
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	78%	0%	契約時、丁寧に説明している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	44%	22%		個人情報保護との兼ね合いがあり難しいが、希望する声も多く、今後充分検討していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	67%	0%	苦情はないが、要望や困ったことなど連絡帳にて表出してもらい、迅速に面談に繋げている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	67%	0%		
	35	個人情報に十分注意している	78%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	78%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	33%	22%		26に同じく個人情報遵守の可能な範囲で開かれた事業運営を図っていく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	89%	0%		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	78%	0%	年2回の避難訓練・及び訓練後の職員アンケートなどで気付きや不足物品など提案しあっている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	67%	0%		外部からの研修依頼なども検討し、広義・狭義での知識を高めていく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	56%	0%	虐待研修と共に、身体拘束に関する条件や対応等周知し、更に知識を高めていく	該当する利用者には説明しているが、今後対象者以外にも話していく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	44%	0%		該当児童はいないが、今後の利用者対応として認識を高めていく
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	67%	0%	ヒヤリハットを指導員会議で共有、再発防止している	事例集等冊子での模範研修を検討していく